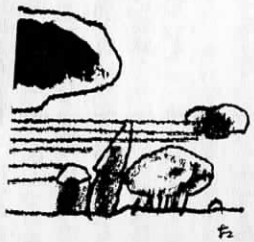
募　集

キブツ労働・学習グループ

——第10回キブツ研修生募集要項



A　あらまし

〈出発〉　10月10日前後予定

〈滞在〉

(1)最低6ヵ月間グループの一員として同一のキブツにとどまること。

(2)グループ解散後は各自の自主性に任せるが、あと半年くらい他の、あるいは同一のキブツにとどまり、経験を深めることが望ましい。

(3)グループを出た場合、あるいはグループ解散後の各自の行先については、当協会は責任を持たない。

〈キブツの受入れ条件〉

(1)原則として一日6時間、週6日労働。時には休日にも働くことがある。

(2)一日2時間、週4～5日程度のヘブライ語の授業を受ける。キブツ、イスラエルに関する授業（レクチャー）も準備される。

(3)労働は無報酬。ただし月に2千円程度の小づかいは支給される。

(4)半年間を通じて、公休以外の個人休暇は7日間。ただし疾病の際はこの限りではない。

(5)グループ旅行、アジア、アフリカ研究所セミナーあわせて約二週間の休暇が与えられる。

(6)労働着、靴、その他労働に必要なものはすべて支給される。日常の必需品もほぼ同じ。しかし、労働着以外の衣服は持参のこと。

(7)2名以上相部屋にしない。部屋にはベッド及び付属品一式、整理ダンス、机などが用意される。

(8)受入れキブツについては参加者の希望を考慮に入れて、当協会とイスラエル側受入れ委員会が協議して決める。

〈グループの性格〉

(1)「仲良し」になることは望ましいが、その前に、契約、義務、権利などを明確にした、共同の利益と相互扶助をめざしたグループであること。

(2)人数は20人前後を一グループとする。

(3)グループで行くのは、キブツの側でも受入れ易く、条件も明確で、一定しているからであり、不慣れな外国生活の初歩として優れた方法であると判断するためである。また、グループの中での一見ささいな日常の種々の問題を通じて、同じく集団で生活をいとなむキブツの日常的な側面への理解と洞察が深まると確信する。

(4)その反面、グループの中でお互の間に気まづさ、対立、意見の相異が出ることは避けられない。それらをいかに処理していくかが、その参加者ひとりひとりに課せられる人間的成長の契機でありうると考える。

〈キブツでの生活〉

(1)労働は、オレンジ畑、バナナ畑、リンゴ園、梨畑、牛舎、鶏舎、羊舎、食堂、洗濯場、工場などさまざまであり、完全に自由にではないが、キブツ側とグループでの相談の上、職場を選べる。特殊な技能はたとえ持っていても、言葉の障害などで発揮できる機会は少ない。

(2)ヘブライ語の授業は、初めは多少英語も使われるが、そのうちに全部ヘブライ語になる。2、3ヵ月で片言を話し、聞けるようになろう。

(3)グループには必ずマドリーフ（世話役）と身の回りの係（メタペレット）がつき、日常の生活の面倒、旅行の世話をしてくれるので、問題があったら相談に行くことになる。キブツ側とのパイプの役を果たす。

(4)1～2人に一家づつあてがわれ、ヘブライ語で話し、キブツメンバーと直接接触する機会を持つ。

(5)芝生、緑が充分にあり、労働後はシャワーを浴びられる。医療、健康管理はゆきとどいている。

(6)たいがいのキブツでは週一日映画があり、平日、金曜の晩にも幾多のもよおしものがある。

(7)アメリカ、ヨーロッパからボランティアーとしてキブツにいる各国の若者たちとも交流する機会が多い。

(8)労働中のけが、病気、事故についてはキブツが責任を負うが、それ以外の私的な事故等（交通事故、慢性疾病、キブツ側の関知しない理由による事故など）に対してはキブツは責任を負わないので、不慮の事故に備えて、海外旅行保険をかけておくことが望ましい。

B　募集要項

(1)申込み締切　7月15日消印まで。あるいは7月17日午後5時までに書類持参。

(2)定員50名まで。

〈資格〉

(1)原則として18～30才の肉体労働に耐えうる、身体健康な男女。

(2)当協会会員であること。（「月刊キブツ」の年間購読者であるか、新規に購読者となること。当協会への理解を深めて行って欲しいから。）

〈必要書類〉

(1)写真貼付した履歴書一通

(2)健康診断書一通

(3)父兄、あるいは保証人の渡イスラエル承諾書一通

(4)事務取扱費五〇〇円（現金または20円切手で二五枚）

(5)論文「なぜ私はキブツに行きたいか？」四〇〇字詰原稿用紙2枚以上。

〈選考方法〉

(1)書類、論文審査（書類その他不備の場合は失格とすることもあります。）

(2)面接選考（七月下旬東京、札幌の二ヵ所で行う。）

(3)オリエンテーション（約二泊三日で、土、日をかける。8月20日前後予定。旅行打合せ、参加者の顔合わせ、キブツ研修に関する質疑などにあてる。）

〈旅費その他〉

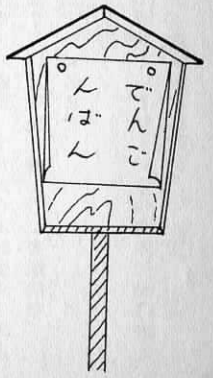
(1)往復旅費とも本人負担。帰国は半年以後となる（不時の場合を除く）ので、当座はイスラエルまでの片道旅費一七万五千円その外に事務雑費五千円、計一八万円。オリエンテーション参加費は別に実費が必要。復路は個人で、イスラエル——東京航空運賃約二二万円。

(2)面接合格者は、旅行予約金2万円（のちに往路運賃に繰り込まれる）を正式申込みと同時に支払うこと。

(3)イスラエル滞在中の心得につき外務省あての誓約書、及び当協会あての身元保証人連署の誓約書を提出すること。

(4)旅行、グループ滞在期間を通じて、当協会より世話役が同行し、問題ある時の処理にあたる。

▼限られた紙面では触れられなかった、キブツという小社会そのもののあり方については、裏表紙にあげた参考文献など参照して、各参加者で調べてみて下さい。



▼人間と大地のまつり月間」提案

去年の夏都心を奪取して、つかのまに夢みたコミューン「人間と大地のまつり」はいまますます幻影めいて望見できる。「人間と大地のまつり」実行委員会は、しかし、この白茶けた真昼間の光をはね返すための活動を停止してはならない。……

× × ×

㈠72年8月を「人間と大地のまつり月間」と名付け、一夜のコミューンを日常の中に拡張し、現実化する。……

× × ×

㈡「人間と大地のまつり月間」は特定のグループ、地域に限定されたものではない。政治、文化、経済、全てを包含した、人間解放を望むすべての人間の営為であり、柔軟な挑戦である。……

× × ×

↓連絡事務所　中野区中野1—35—17　大和マンション内「人間と大地のまつり」実行委員会

▼園芸コミューンを—《構想》抄

農場——20町歩ほどで椿の繁殖、肥培を主体とし、下草を利用して兎を飼育。

工場——椿種子の搾油。油かすは肥料として農場に還元できる。

販売——切花。椿油は食品、化粧品工場へ。兎は実験用動物として研究室へ。

生活——完全共同化をめざす。共同食堂他諸施設。漸次自給体制を考える。

↓連絡先　鎌倉市浄明寺一二一　久保直彦

▼アピール＝伝習館六月全国集会に＝

いま、新しい教育の試みが始まりつつある。福岡の小都市柳川の〈柳下村塾〉が。

——地域柳川と教育とにあくまで下降することによって、生活と労働から無限に疎外された近代公教育へのささやかな抵抗線を創っていくこと。「託児所」「若衆宿」「老人宿」を中心に「わかるさんすう教室」「コトバの教室—英語」を含めて、三百名前後の集団が四月三〇日の開塾を迎えたのはその試行の第二歩目である。

第一歩とは、一昨年六月六日、県教委によって伝習館高校三教師が「偏向教育」処分に付された時から始まっていた。勿論処分以前から三教師は生徒達と共に、己自身のコトバを所有するための、即ち受験体制の真只中から人間としての自立と連帯を求め、この国のあらゆる差別と闘うための試行錯誤を重ねてきていた。

それが無謀な処分への強烈な怒りをバネに闘いが全国に広がり、各地に続々と救援活動が起こっていったのは、全国的に「教育」が押しつぶされた状況の中で、なお自分の手と足で抵抗し、模索する多くの人々に、伝習館の闘いが触れ合う何かをもっていたからだろう。

「あくまでも自主的であれ。思想とは己の存在をかけた決定である。他人の言葉を無批判に喋るオウムになるな。まずはかく言う私自身の言葉から疑ってかかれ。……たとえどんなに権威のない人、偉くない人、有名でない人の言葉であろうと、その言葉に芯から納得がいくかどうかを、己の存在をかけて己自身に問うてみよ。それが思想への第一歩である」と三教師は語っていた。

そして処分から二年目の来たる六月、私達は全国に拡がった闘いがどこまで確かな深さを持っているかを知るために集う。各自の具体的な実践、現場からの徹底した討論によって、更に私達が何をいかにして所有すべきかを明らかにするのが課題である。〈柳下村塾〉の歩みに呼応しつつ、私達が何をやろうとしているのかが、この六月の全国集会を通じ明らかにされるだろう。

「教育」への関心、絶望、期待、怒り、ウラミ……を抱く全ての人に、共にこの集いに参加されることを訴える。

日程●6月10日　16～21時　東大駒場他

分科会—在日朝鮮人への同化教育をめぐって　夜間中学　障害者と教育　部落・私たち・教育　日教組・家永裁判・伝習館裁判

●6月11日　10～13時　両国公会堂

分科会—教育—個有の構造の内と外　学校・職場・労働　柳下村塾・地域・自立闘争

全体集会　11日　14～19時　両国公会堂

「われわれにとっての伝習館闘争」

↓連絡先　目黒区駒場　東大進学相談室内伝習館六月全国集会実行委員会　電四六七—〇一三八・四六七—一一七一内二七九

制作部メモ

▽さまざまな人間の解放のための運動が抑圧されたり、相殺しあったり、内部崩壊したりして停滞している。それに対して、現在の政治と経済を支配している勢力はますます強大になっているようにみえる。ニクソンのアメリカの横暴や日本の政府の厚顔さは目をおおうばかりだ。それに、ぼくら自身の内部に巣くう弱さと利己心が彼らをのさばらせている。今こそよどみの底から、新しい力の源泉を発掘し、ぼくたちの弱さを克服してゆこう。

▽ゆったりと楽しみながら生きることが、現在のさわがしい世の中に対する鋭い抵抗であり、新たな生き方と解放された社会の創造であるような、そうした生きザマをしてみたい、とフト思う。相手がコセコセ動いていることに対して、同じようにこちらもコセコセ動いてゆくような対応の仕方ではなく、ぼく自身のリズムで生きたいと、しきりに思うのだが。　——哲

▽事務所をねぐらにしてから早何ヵ月か。冬の間は寝袋に寝ても足が冷たくて困ったが、今は毛布一枚で充分。食事の準備にも困らない。夕方から夜にかけて来客があり、深夜まで話しこむことも多くあり、楽しんでいる。僕にとって、いわゆるプライバシーというのは本当に必要なものかどうか、あやしくなってくる。

みんなよく外に出る。今日は允士と恭子は東山産業での「青年交流の会」に出て四国にいる。哲はイスラエル、キブツ・ササのメンバーだったアブラハム・ベン＝ヨセフをつれて金峰のSCIトレーニングセンターへ行った。そこで事務所の留守番は手塚さんとボクだけ。今しがた手塚さんも帰ったので、この部屋はボクの領分。

▽この号は特集として「都市共同体」をとりあげた。筆者はみな二五才前後の若者たち。読んでいて何かスカッとした気分になる。これからおおいに活躍してくれる人たち。期待しよう。

「共同体」ということば、できる限り拡大解釈して使っている。「国家」だって「世界」だって「宇宙」だって「共同体」でいい。しかし、ぼくらの知覚構造が変わらぬ限り、それらを真に「共同体」としてはとらえきれまい。とらえきれないものを頭の中でデッチ上げたときは、それはぼくらの考えるものとは対立するものになるかもしれない。信念はもつまい。しかし、持ってもいいのかもしれない。他人への強制がなければ。ヒコ

■直接購読（入会）のすすめ

この雑誌は主に定期的な直接購読者（キブツ会会員）によって支えられています。１年間（12号）の会費は入会金(200円)とも2,000円。申込みは、現金書留か振替で、氏名、住所、生年月日、職業など書いて、送って下さい。

■月刊キブツ取扱書店

東京＝新宿紀伊国屋、神田東京堂、模索舎、ウニタ書店、国分寺アヴァン書房、駒場書店　**京都**＝京都書院　**札幌**＝富貴堂、北大生協、アテネ駅前店　**仙台**＝八重州書房　**盛岡**＝第一書房　**福岡**＝九大生協　**名古屋**＝おばた文庫　**富山**＝清明堂　**松本**＝遠兵ブックセンタ

■印刷所＝創土社　東京都港区芝５－16－13　電話 452－0501・6069

「月刊キブツ」　1972年６月号（通巻99号）
頒価 150円　送料16円（１年間2,000円）
東京都渋谷区代々木４－５－14　参宮橋ハイツ10号　**日本協同体協会**
電話 370－2813　　振替・東京 24403

募集
第10回　キブツ研修生

■応募資格　1年令　18～30才までの男女
　　2健康で肉体労働に耐える人
■申込締切　昭和47年７月15日まで
■必要書類　履歴書　健康診断書　家族承諾書
　　応募論文「私はなぜキブツ研修を望むか」
■旅　　費　往復とも本人負担
　　片道　ソ連経由約一週間
　　復路　現地解散
　　単身航空機直行の場合約22万円
■案内係　キブツ研修経験者が世話係として同行

★詳細は本文Ｐ60にあります

日本協同体協会（キブツ）

▼参考文献▲

・「月刊キブツ」当協会　一冊¥一五〇
・「もうひとつの社会キブツ」大成出版　¥一〇〇〇　〒一四〇
・「キブツ—その社会学的分析」誠信書房　¥三八〇〇
・「キブツの記録」誠信書房　¥七五〇　〒一一〇
・「キブツ・戦争・オレンジ」芙蓉書房　¥七五〇　〒一一〇
・「キブツのこどもたち」誠信書房　¥一二〇〇　〒一四〇
・「キブツとは何か」当協会　¥五〇　〒五〇
・「若きティクバー研修生グループ記録」ラマトヨハナンの会発行¥二〇〇〇〒五〇
・その他機会をみて写真集など

ごらん下さい。

東京都渋谷区代々木４—５—14
参宮橋ハイツ10号（〒一五一）
振替東京二四四〇三　日本協同体協会